

平成28年6月24日(金)

老球の細道245

## 県高校体育大会あれこれ

会津バスケットボール協会 室井 富仁

◆今年も高校生のスポーツの祭典「県高校体育大会(インターハイ県予選)」を観戦することができた。教え子の結婚式や大学の授業があったりして1回戦からみることはできなかったが注目チームの試合はなんとか観戦できた。男女の決勝戦も断片的にしか見れなかったが県大会の全体像は把握できたのでまずはよしとしよう。

男女とも優勝は予想通りの結果に終わった。福島南、福島西の実力はさすがに他を圧倒していた。両コーチ共に熱血漢であり指導実績も十分なコーチなので全国大会上位を視野に入れ、新人戦以降相当チーム強化に尽力した様子が現れていた。特に他のチームを圧倒してたのはディフェンス力であった。能力のある選手たちをそろえているが、それらの選手たちがひたむきに、身体を張ってディフェンスをしている様子がすばらしかった。ディフェンスを厳しく指導できるのはコーチの指導力である。

とかく能力のあるスター選手はディフェンスを休みがちになる。以前某県で高校界のスーパースターと呼ばれる選手がいた。その選手は確かにオフェンスの1:1能力は超高校級と呼ばれるほどの実力を持っていたが、ディフェンスになるとまるで別人と化していた。ハリバックはしない、自分のマークマンは離しすぎ、ディフェンスリバウンドはスクリーンアウトなどしないで自分のところに落ちてきたボールにしかとびつかない。自分のオフェンスに備えてディフェンスに使うエネルギーを節約しているとしか思えなかった。

福島南、福島西共に今年は全国ベスト8を狙えるチームである。久々に福島県から公立高校で全国のトップレベルを狙えるチームが育ってきた。折しも来年は地元福島インターハイである。この2チームを目標に、いやこの2チームを倒す意欲のあるチームがたくさん現れ、さらに福島全体のレベルアップが図れば幸いである。

◆来年度の福島インターハイに備え、チーム強化のみならず、運営役員、T・O役員、審判員の育成などが今大会を利用して行われていた。言うまでもないが、大会はこのような縁の下で支える人たちの尽力があってこそ成功する。しかも全国対規模となると、その準備にかかる労苦は並々ならぬものがある。

思い起こせば昭和47年のインターハイも福島市で開催された。後輩の会津高校が第一代表で出場した。当時私は大学の1年生であったが、大会役員に委嘱されて報道委員の仕事をした。大会の1か月前は夜9時ころまで仕事をしていたがキャップのA先生がとても面倒見の良い先生で、仕事が終わると飯坂温泉に連れていってもらったりして楽しい思い出ばかりだった。また、仕事をしながら初めて生で観戦したインターハイのゲームに感動した。大会役員の皆様には楽しみながら仕事をして大会を盛り上げていただきたい。

◆今大会には多くのバスケット協会OBの大先輩方が観戦に来ていた。何歳になってもバスケットボールに情熱を失わずに大会に顔を見せてくれることに敬意を表したい。先輩方と思い出を語ることも楽しい。多くの先輩方が大会を観戦に来るということは福島県のバスケットボールが注目されているということの意味する。ファイヤーボンズの活躍、福島南、福島西両校の東北大会優勝という快挙とインターハイでの入賞という期待感が福島の体育館に多くの人々を呼び寄せている。福島のバスケットボール万歳である。